



世界最長のウィンカー周囲や照射角度などをクリアしたことを示すマークを取得。安心感も申し分ない。



シーケンシャル発光と通常の点滅モードは、このボタンで簡単に切り替え可能。もちろん、商品に同梱される。

ユーザーのニーズをベースに選ばれる商品開発を展覧

アベストが商品を開発する時に重視しているのがユーザーの声。いくら作り手がいいと思って、それがユーザーのニーズを度外視した商品としたり、言うまでもなく満足度を高めることは難しい。

そこで、普段からドレコやオフ会、ミーティングなどにも積極的に参加し、地元静岡を抜け出し、愛知や大阪、兵庫、東京、千葉などに遠征し、生の声を聞きにいくことも珍しくない。

「アベストの商品を付けていたというユーザーさんにお話を聞いて、明るさも含めて感想をお聞きしています。作り手には気付かないような細かいことを指摘いただくこともありますが、商品開発の際に参考にさせていただいています。」

さらに、自社商品の装着率やニ

ズの多様な車種を把握すること、商品開発に役立てているのだ。

2020年2月には、アベストの敷地内にショールームをオープン。ショールーム内には、ヴァーティカルアローシリーズのドミラーウィンカーを取り扱っており、同社のアイテムを数多く展示。ユーザーとしては実際に手に取って確かめるメリットがある一方で、アベストとしてはこんな狙いもある。

「これまでずっとオンラインショップのみでした。そうすると、ユーザーさんの声を聞くことはできない。その反面、ショールームにお越しただけは、ユーザーさんとお話できる機会が豊富です。そこでもいろいろなお話を聞きます。今後の商品開発の参考にしています。」

今やシーケンシャル機能は決して珍しい存在ではない。だからこそ、ユーザーに寄り添い、満足度を高めるための施策が必要なのだ。



アベストの敷地内にあるショールーム。天井高く開放感があるうえ、商品が綺麗に整理整頓されているのが印象的だった。



株式会社アベスト 代表取締役 藤原 裕矢

初めてドミラーウィンカーにシーケンシャル機能を搭載

シーケンシャルウィンカーは、通称「流れるウィンカー」とも呼ばれ、アウェイなどといった欧州車のヘッドライトに採用されたことをきっかけに広がりを見せた。日本でもレクサスやCHR、N BOXカスタムなど、ハイエンド車から軽カーまで幅広い車種に搭載され、一気にポピュラーな存在となった。アブターパーツメーカーがそのトレンドを見逃すわけはなく、各メーカーがシーケンシャル機能を搭載したヘッドライトを競ってリリース。瞬く間に、光モノドレスアップの定番として位置付けられるようになった。

その流れはヘッドライト以外の光モノアイテムにも影響を及ぼし、今やシーケンシャルウィンカーを搭載したテールランプやウィンカーミラーも珍しくない存在ではない。ゆえに、シーケンシャル機能ありきで、光り

方やデザインなどで各メーカーが差別化を図っているのが現状だ。しかし、じつはドミラーウィンカーにシーケンシャル機能は、静岡県浜松市に本社を構えるアベストが初めて、本誌読者ならご存じであろうヴァーティカルアローシリーズだ。

「以前は、ドミラーウィンカーは、チューブタイプの鮮烈なブルーライトシリーズを展開していましたが、ただその当時から主流になってきていたLEDのLEDが主流になってきていて、さらに、シーケンシャルウィンカーが出始めたタイミングとも合致したことで、面発光と流れる機能の両方をドッキングしたドミラーウィンカーを開発しようと考えました。」

そうして、およそ5年前にヴァーティカルアローシリーズがベールを脱ぎ、すぐさま人気シリーズの仲間入り。VIPオーナーからも絶大な信頼を勝ち取るまでに成長した。「最初は東京オートサロンやオフ会などでお披露目したんですが、お客様の反応がそれまでの鮮烈なブルーライトシリーズの時とは段違いでした。その場で多くのご予約をいただいたこと、大歓迎でした。」

最大の特徴は、シーケンシャル機能を搭載している点ですが、ヴァーティカルアローシリーズにとっては、もはやこの機能は当たり前のもの。

デザイン性の高さで人気を獲得

AVEST

アベスト 静岡県浜松市中区高丘北3-22-20 TEL.053-414-5416 <https://avest.jp>

【第2特集】
愛車の印象が変わる！
ライトメイク最前線
2020年度版



えで注目しているのがデザイン性の高さ。まずデザイン性。アールを描いたアクリルパネルにより、立体感を表現することに成功。さらに、矢（アロー）のカタチにデザインされたオンパレードメッキにより、昼間でも絶大な存在感を放つ。さらに、光がメッキに反射されることで、十分な光量を誇るのも特徴のひとつ。また、光漏れを防ぎ、ブロックにくっきり光るのもアベストの技術力の賜物である。

「一個一個のブロックがきちんと立って光るので、お客さまからは『流れ方が綺麗』とお褒めの言葉をいただいております。」

なお、シーケンシャル発光と通常の点滅はスイッチひとつで切り替えが可能。昼間は点滅、夜間はシーケンシャル発光と、シーンに合わせて使い分けられるのも嬉しい。

取り付けも至って簡単。配線は接続は少なからず存在するが、ポン付けでOK。ボディに穴を開けたら付たりなどの作業は一切不要。基本的にはポン付けできる商品開発をモットーにしています。2,133円で簡単かつ劇的に見た目を変えるポイントだと思えます。」



こちらはヴァーティカルアローの50LS用ドミラーウィンカーレンズ。シーケンシャル機能ももちろん、ハイエンド車高感度のあるメッキがスタイリッシュ。

YouTubeチャンネルもアベストの最新情報を配信

現在アベストでは、公式YouTubeチャンネル「AVEST Japan Channel」を鋭意更新中だ。特にこの半年は積極的に動画をアップし、6月中旬時点でチャンネル登録者が公開されているなど、ドレスアップ界隈では注目のチャンネルともなっている。

このチャンネルでは、ヴァーティカルアローシリーズの点灯シーンはもちろん、今年2月にオープンしたばかりのショールームの様子やアベスト商品の紹介、DIYでの取り付け方法、車種別の最新情報、イベントの様子など、幅広いジャンルの動画をアップしている。

どれも興味深い内容となっているが、なかには、じつに20万以上再生されている動画もあって申し分ない見応え。セクシーだけでなく、ミニバンやインポートカーなどの情報も満載。MCを務める藤原さんを中心に、時には、謎の美女モデル(?)がゲストとして登場することもあって、ドレスアップユーザーなら誰もが楽しめる内容となっている。気になる人は、左のQRコードからすぐチェックすべし。

ドミラーウィンカー以外にもラインナップが豊富か？

これまでも紹介している通り、本誌読者ならヴァーティカルアローシリーズといえはドミラーウィンカーの印象が強いゆえに、次なる一手を楽しみにしているユーザーも少なくないはずだ。

今後はもしも追加するかもしれない。今後アベストの商品開発からも目が離せない。



50LS



Vertical Arrow ドミラーウィンカーレンズ

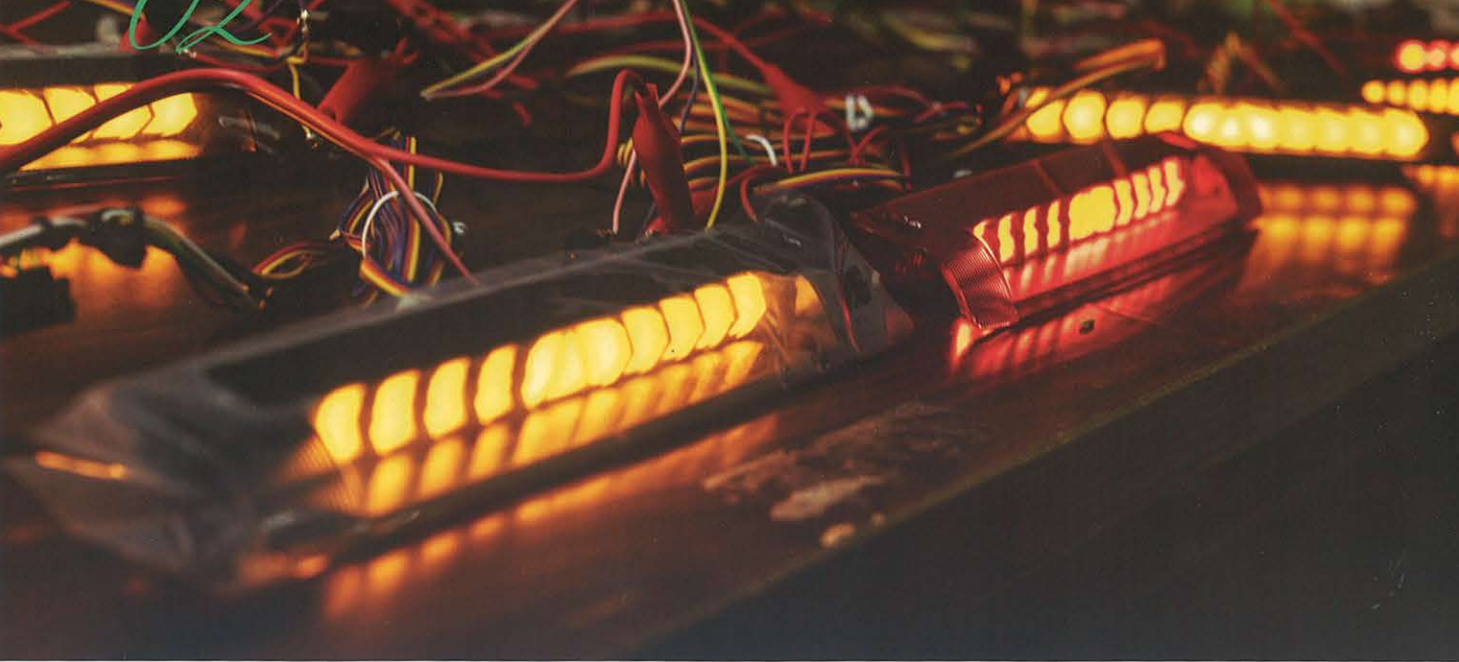
50LS用では従来のデザインを一新。あえて社外品っぽさを抑え、発光面は小降り、カッパンな意匠を採用。また、メッキを採用することで、高級感も兼ね備えている。純正カラーを再現するだけでなく、ハイエンド車にふさわしいデザインに仕上がった。デモカーはアベティンクスとビルディングのエアロを装着しているが、エアロにもマッチするさり気なさ。



40LS前期用フルLEDチューブテールランプ for 70カマリ for 40LS前期 for 40LS後期

アクリルチューブ発光タイプなので、交換するだけで、中期タイプに早変わり。取付は簡単！車検も通る。 全長58センチの40LS前期のドミラーも、ヴァーティカルアローのドミラーレンズで最初の真似に。 意外にも40LS後期にはドミラーウィンカーが搭載。レンズ付きカーへの取付はDIYでも可能だ。

ライトメイク最前線



度重なる点灯チェックを経て安心の商品をユーザーにお届け

商品をつくる際、アベストではユーザーのニーズを元に起こしたデザインを工場に送り、モックアップと呼ばれる実物の商品に近い模型のようなものをつくる。そのモックアップを使って配線の長さや基礎的な寸法などを細かく設定したら、今度は試作品をつくり、アベストの社内で実際の車両を使って取り付けテストなども実施している。

「まずは、問題なくドミラーに組み込めるのか、問題なく配線できるのかといった基本的なことからテストしていきます。」

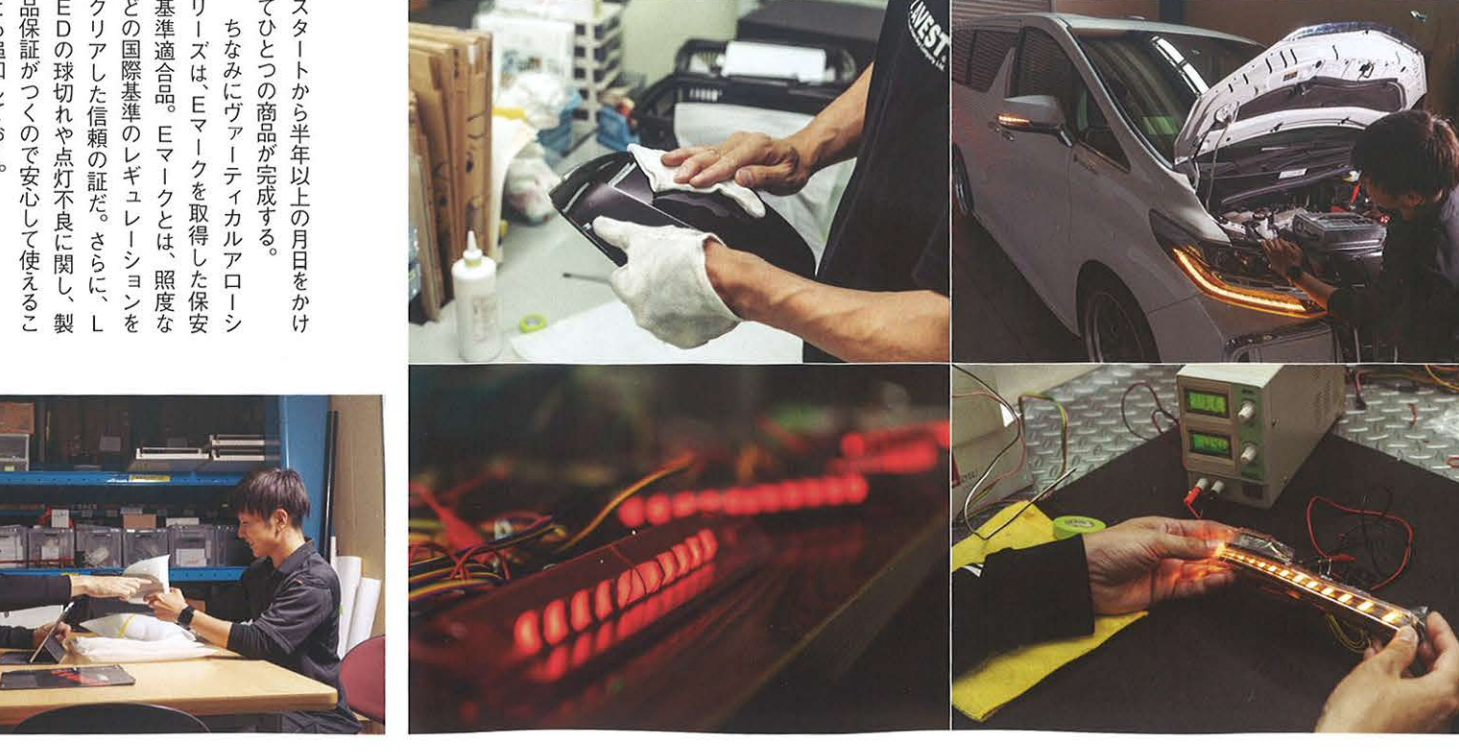
もちろん、ここで少しでもズレや隙間などが発生したら、工場に依頼して再度作り直す。ドミラーウィンカーなどは平面に取り付けられる商品ではないので、より入念な取り付けテストが必要になってくるのだ。さらに、開発段階において非常に多くの時間を割いているのが点灯テスト。アベストでは、商品単体と車両に取り付けたバッテリーで点灯テストを行っている。

「工場から届いた商品は、必ず一つひとつ単体の点灯チェックを行なっています。通常であれば2,133時間、なかには、ひと晩中つけっぱなしにして点灯テストをすることもありますが、一方で、車両に取り付けてチェックする場合は、例えば、午前中は通常の点滅モードで、午後はシーケンシャルモードで点灯し、耐久性なども含めてチェックするようにしています」と藤原さん。

すべてのテストを終了し、問題がなければ社内で撮影してWebサイトに商品ページを作成。開発

スタートから半年以上の月日をかけてひとつの商品が完成

ちなみにヴァーティカルアローシリーズは、Eマークを取得した保安基準適合品。Eマークとは、照度などの国際基準のレギュレーションをクリアした信頼の証だ。さらに、LEDの球切れや点灯不良に関し、製品保証がつくので安心して使えることも追加しておく。



スタートから半年以上の月日をかけてひとつの商品が完成。ちなみにヴァーティカルアローシリーズは、Eマークを取得した保安基準適合品。Eマークとは、照度などの国際基準のレギュレーションをクリアした信頼の証だ。さらに、LEDの球切れや点灯不良に関し、製品保証がつくので安心して使えることも追加しておく。